



ニッポン ドクター和の 臨終図巻

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

報道を目にするたび、涙が溢れます。ご遺体が帰国され、成田空港では、在日アフガン人60人も棺に黙禱(もくとう)をしたそうです。

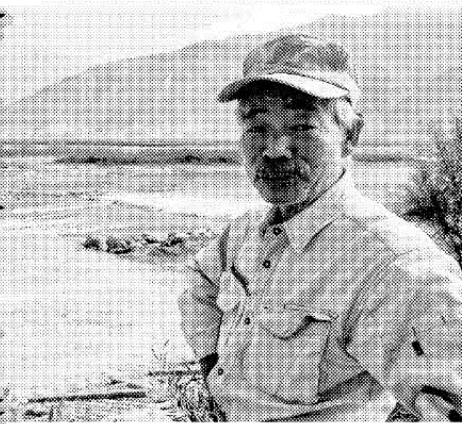
かつては世界で一番有名で信頼の厚かった日本の医師といえは、日野原重明先生(2017年没)でしたが、現在は間違いなくこの人でした。

アフガニスタンで長年支援活動に携わっていた医師の中村哲さんが12月4日、車で移動中に武装集団に銃撃され、仲間5人とともに命を落としました。73歳でした。

10年の夏、兵庫・尼崎に講演に来られた中村医師にお会いしました。講演のタイトルは、「アフガニスタンに命の水を」でした。

彼の地での餓死とは、栄養失

135 医師 中村哲



調で枯れるように亡くなるわけではないことをその時、初めて知りました。人々は空腹を紛らわそうと不衛生な水を飲み、赤痢などの感染症に冒されて脱水症状になって死に至るといいます。

そのため中村医師は、故郷の九州、筑後川を参考にして、自

ら重機を動かしてアフガニスタンに井戸や水路をつくる活動を始めました。多くの医療者は、弱っている人に薬を与えることが治療。医師の仕事だと思っ

「悪」なのか? 「悪」とは限らない。自分もタリバン一派とみなされているのかもかもしれない。マスコミが作った偏見が多すぎる」

「人間の飢えや渇きは、薬では決して治せないのだ」 わが意を得たり、でした。医療の本質とは、薬を出すことではない。目の前で困っている人を分け隔てなく助けることなのです。

「アフガン問題とは空爆の問題ではなく、水の確保の問題」であり、「平和に武器は必要ありません」と言い切った、あの優しいようなお顔を忘れることができません。

そのときの講演会のやりとりが、私のブログに残っていたのでいくつか紹介しましょう。

その中村医師が、武器の犠牲となるなんて…ちょうど来日公演中だったロックバンドU2は、追悼の意を込めて名曲「PRIDE」を歌ったそうです。その歌詞には、こんなフレーズがあります。―命は奪えても、その人の誇りを奪うことはできない。あなたの存在は、すべての医療者の誇りです

「なぜ日本ではなくアフガンに?」
「どちらでもよかったです。もしアフガンに行かなければ、九州の無医村で働いていただろう」
―今の日本をどう思うか?
「余計なもの(携帯電話

「命の水」に込めた医療者の誇り